

しずおか平和の風

No.7
 2015年11月22日
 発行
 静岡市
 平和委員会
 静岡市葵区鷹匠
 1-5-8
 TEL 253-1854
 FAX 252-0785
 メール
 Peace-City
 @mail.707.to

戦争法は廃止に！

9月19日、安倍自公政権は憲法違反の戦争法Ⅱ安全保障関連法を、大多数の世論を踏みにじって国会内の多数の横暴で「成立」させました。

憲法第9条がある限り、戦争法は違憲・無効です。戦争法廃止、さらに安倍政権を退陣に追い込むため、共同の闘いが最重要です。

立憲主義、民主主義を守れ！

戦争法は、政府のこれまでの憲法解釈を180度転換した閣議決定にもとづくもので、平和主義、立憲主義、民主主義を破壊するものであり、絶対に認めるわけにはいきません。

私たちは、戦争法反対に立ち上がった多くの国民とともに、立憲主義、民主主義を守り、日本を「アメリカと一緒に」戦争する国にさせない「新たな闘いを展開してゆくことが大切です。そのために ①戦争法の発動を許さず、廃止に向けたたかいて進める。②こ

総がかり行動

の法律を通した自民党・公明党を政権の座から引きずり下ろすことです。強行された後も決して冷めない戦争法反対の世論を背景に、共同したたたかいて進めましょう。

戦争法反対のたたかいは、SEALDs（シールド）や高校生、若いママたち、そして「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」の活動が大きな役割を果たしました。これまでばらばらに憲法を守る活動を進めていた人たちが、力を一つに集め大きな

つむじ風

松代大本営と沖縄

先日、退職教職員の会でリンゴ狩りに行った際に、長野市にある松代大本営跡を見学した。政府や報道機関、通信機関などが入る総延長5,800mにも及び地下壕を見て、沖縄島民の4分の1が犠牲となり、兵士と合わせて20万人が殺された沖縄戦のドラマが、その舞台を一層巨大にして上演されることを想像した。まさに狂気の沙汰だ。

1944年11月11日11時を期して工事が開始された。本土決戦を覚悟した大本営は1日も早い完成をめざし、多くの犠牲者（多くは強制連行されてきた朝鮮人）を出しながら突貫工事が進められた。翌年4月1日から沖縄戦が始まった。大本営は、一日も長く戦い本土決戦のための時間稼ぎをせよと命じた。20万人の死は、まさに本土決戦の象徴である松代大本営を完成させるための時間稼ぎのためであったのだ。

今また本土の犠牲になっている沖縄。しかし、朝日新聞の世論調査によれば、国民の半数は翁長知事の態度を支持しているという。明るさも見えてきた。（合戸 政治）



←市内葵区・札の辻でのシール投票。

**2000万人
統一署名**

総がかり行動実行委員会では戦争法を廃止するため、この活動に参加した諸団体と力を合わせ、「戦争法の廃止を求める統一署名」を2016年4月までに全国で2000万人以上集めることを提案し、国民に呼びかけました。

静岡市平和委員会はこの署名運動に取り組んでゆきます。毎月3回、9の付く日に、昼休み宣伝署名行動が計画されています。全会員の積極的な参加を呼びかけます。

基地調査に参加 その1 新村 直樹



10月31日、御殿場で開かれた平和大会の「基地調査」に参加しました。若い時大阪の中島公会堂で開かれた大会に参加して以来です。名ばかり会員の私が幽霊みたいに出たようで、晩秋の幽霊では洒落にもなりません。▼久々の基地調査、広大な富士のすそ野をわが物顔に使うアメリカ軍と自衛隊に対してあらためて怒りが沸きました。155mm榴弾砲が富士に撃ち込まれ、戦車が走り回る。まさに「富士を撃つ」姿は、世界文化遺産として恥ずかしくないのかと叫びたい思いです。▼

平和の象徴である富士山から1日も早く軍事演習場を撤去させ、名実ともに世界文化遺産として誇れるようにしたいものです。また沖縄をはじめ全国にあるアメリカ軍基地を無くす闘いをと強く思う1日となりました。

◆◆私の戦争体験◆◆ ひもじくなるへへへ口へ口した

食べるものは何もなかったのです。ご飯の代わりになる芋もなければ、柿、みかんもなかったのです。台所、茶の間の容器のふたをあけ、あさっても、砂糖もなければ、牛乳もない。農家は畑へ行けば何かしらあったでしょうが。

小学校1年生のころ（昭和20年）、魚の切り身（マグロ？）ひと切れの配給がありました。冷蔵庫がなかったので醤油に漬けてありました。「おまえはネコだ。」と言われるほど魚好きの私はひとりで全部食べてしまったのです。「ご飯のおかずがないじゃないか。」と、母親に叱られました。（家族は他に父親）

ひもじい時にはへへへ口しちやうんだね。

家は間借り、同じ屋根の下に、他の家族が同居。七輪ひとつでの暮らし。お互

い食べ物、薪のない者同士。そこに何があつるか。米びつの米の表面に印をつけておく、印がなくなる。階段下に薪を置いていた。部屋障子を開けると、上に住む若い主婦が薪を胸にかかえていた。目が合い、私はびっくり。双方なにも言えなかった。

多くの人がひもじい体験をしているでしょうが、ともかく人を見る目がきびしくなりました。あの人が盗んだのではないかと疑い深くなりました。

食料が何もない、ひもじさをどうしたら伝えられるかしら？物のあふれる今、「ひもじさ」をどう語ったらわかってもらえるでしょうか。お寺の境内に落ちている杉の枯れ枝も貴重で、それを拾ってくるのも、私の大事な仕事でした。

(76歳・女性)



切り絵：鈴木正

※へへ口①空腹のさま（愛媛県松山）
②物が食いたそうなきさま（島根県石見）
― 全国方言辞典より

《考える習慣をつけることだ》

ケーテ・コルヴィッツ（ドイツの画家・彫刻家 1945年4月没）は孫娘に言いのことだそうです。

「いつか、ひとつの理想が生まれるだろう。そして、あらゆる戦争はあしまいになくなるだろう。―この確信をいदैいて私は死ぬ。そのために人は非常な努力をばらわなければならないが、しかし、必ず目的は達成するだろう。平和主義をたんなる反戦と考えるてはならない。それは一つの新しい理想、人類を同胞としてみる思想なのです。」

☆「世の中の子どもたち全員にそれを押し付けるような教育が正しいとは思わない。なぜなら世の中にはいろいろなタイプの子どもがいるからだ。」

☆「考える習慣をつけてやること以上の道徳教育はない、と俺は思う。」

☆「嘘ばかりついている人間ほど、子どもに嘘をつくなど教えたがるものだ。」

少し飛躍しますが、日本国憲法前文に「自国のことにのみ専念して他国を無視してはならないのであって、政治道徳の法則は、普遍的なもの」とあります。（自民党の改正案にはこのような理想は一片もありません）

南京大虐殺に関して日本政府の提出した「世界遺産登録」の意見書は、南京事件を否定する学者が作成し

たものだといいいます。（コネスコでは無視したと。）

政府自らもたらした暮らし、雇用、子どもたちの生きがたさを、教育・道徳で「始末つけ」ようとしています。

「ほんとうに必要な道徳教育は、子どもたちにできる限りの真実を教えてやることだ。」と書いています。真実からのみ理想は生まれるのですから。（鈴木正）



北野武（著）

『新しい道徳』

「いかに」をする「気持ちがいい」のはなぜか

幻冬舎・刊 1000円＋税

募集します。

会員、読者の意見、感想、活動の様子をお知らせ下さい。（編集係）
TEL 253-1854 FAX 252-0785
メール Peace-City@mail.707.to



琉球新報

2015年10月25日
投稿欄より転載

卑劣な日米両政府

なぜ日米両政府は辺野古に新基地を造ることに執拗にこだわるのか。口を開くと「一刻も早い普天間の危険性除去のために」。まるで宜野湾市民、県民の命を守るためにと言わんばかりだが、県民をばかにするのもいい加減にせいと言いたい。

10年以上前から「世界一危険だ」と指摘されながら、その危険な飛行場を使い続け、その上県民の強い反対にもかかわらず「未亡人製造機」と酷評される危険なオスプレイまでも駐機させている。本当に住民の命を尊重するのであれば、世界一危険な飛行場は即刻閉鎖するのが正常な人間の考えることだ。

戦後70年、県民の命を危険にさらし続け、その上、辺野古新基地建設にかかる今後10年以上の間、この世界一危険な普天間飛行場を使い続け、今にも事故を起こしかねないオスプレイを飛行させるつもりらしい。

「世界一危険な飛行場」と言いながら、「辺野古の新基地ができなければ固定化させる」と脅す両政府の姿勢は卑劣極まりない。

70歳・男性／与那原町